

令和3年度第1回 子ども・子育て会議 会議録

令和3年7月20日(火) 14:00~15:25
今治市役所 第1別館10階 101会議室

令和3年度 第1回今治市子ども・子育て会議 会議録（概要）

- 1 日時 令和3年7月20日（火） 14:00～15:25
- 2 会場 今治市役所 第1別館10階 101会議室
- 3 議題 第2期今治市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について
未来子育て部会の設置について
- 4 報告 教育・保育部会について

5 出席者 【委員】16名

泉浩徳委員、砂田ひとみ委員、村上伸幸委員、大澤宏伸委員、
龍田三津子委員、越智瑞啓委員、田中弘委員、清水正恵委員、
村上正親委員、中川豊和委員、田中嘉男委員、矢野信子委員、
松本義秀委員、梶原淳一委員、桑原祐麻委員、篠原裕子委員

【事務局】15名

健康福祉部長、子育て支援課長、保育幼稚園課長、生活支援課長、
教育委員会事務局次長(兼)学校教育課長、社会教育課長、
健康推進課長補佐、障がい福祉課長補佐、子育て支援課長補佐2名、
保育幼稚園課長補佐、保育幼稚園課企画係長、
子育て支援課こども健全育成係長、子育て支援課子育て支援係長、
子育て支援課子育て支援係主事

6 欠席者 【委員】2名

青井努委員、渡邊美幸委員

7 会議内容

会 長	当会議の開会
会 長	新任委員の紹介 (大澤宏伸委員、田中弘委員、中川豊和委員、田中嘉男委員)
会 長	人事異動等により新たに事務局となった職員の紹介

	<p>(健康福祉部長、子育て支援課長、保育幼稚園課長、生活支援課長、教育委員会次長兼学校教育課長、社会教育課長、福祉政策課長、障がい福祉課長)</p>
会 長	議事録署名委員に砂田ひとみ委員を指名
会 長	第 2 期今治市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について説明を求め。
事 務 局	資料 1・2 に基づき、今治市子ども・子育て支援事業計画の令和 2 年度における確保内容と実績について報告。 (資料 2 の 3 ページ以降は、基本目標ごとに抜粋して報告)
会 長	委員に質問意見等を求める。
会 長	「子どもの学習等支援事業」について、具体的な内容を教えて欲しい。対象の児童はどのような方か。
事 務 局	対象児童は、生活保護受給者世帯及び準要保護世帯の一部も含む。内容は、集合型として社会福祉協議会に委託し、愛らんど今治を会場に実施している。また生活支援課の学習支援員が、各地区の公民館等に出向き、訪問型あるいは少人数型の事業を実施している。
矢 野 委 員	「青少年悩み相談」について、相談件数 15 件ということだが、相談に対し解決はできているか。
事 務 局	青少年センターの方で相談事業の方を受け付けており、15 件の内 1 件がいじめ相談であった。主には思春期における健康や心の相談、不登校など。対応については、学校の先生のOBである指導員等によって、適切に対処している。相談体制については、学校教育課とも連携しており、昼間は青少年センターの相談員が対応し、夜間は学校教育課で電話を預かり 24 時間対応をしている。
砂 田 委 員	「マイ保育園事業」について、講座は年齢関係なく参加できるが、お試し保育は満 1 歳からしか利用できないが、産休を取ってから満 1 歳になるまでに、お試し保育を利用したいという声も聞く。昨年度は新型コロナウ

	<p>イルスの影響で実施できなかったが、今年度の状況はどうなっているか。</p>
事務局	<p>今年度も新型コロナウイルス感染症対策の影響で実施できていない。お試し保育について、1歳までに利用したい市民からの意見も複数ある。今後も本事業の実施のあり方、利用年齢について検討し、利用しやすいような運営を心がけたい。</p>
会長	<p>第2期今治市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について、承認を求めらる。</p> <p>(拍手により承認される)</p>
会長	<p>次に、未来子育て部会の設置について、事務局に説明を求めらる。</p>
事務局	<p>資料3に基づき、未来子育て部会の設置について説明する。</p> <p>今治市子ども・子育て会議条例第8条より、「子育て会議に、部会を置くことができる。」と規定されていることから、以下の目的、職務を担うこととして未来子育て部会の設置を提案させていただく。</p> <p>「1. 部会設置の目的」については、今治市子ども・子育て支援事業計画の施策展開の中で、未来を担う子どもたちを安心して産み育てていけるよう、子育て支援サービスや教育・保育環境の充実を図りながら、妊娠・出産・子育ての各ライフステージに応じたきめ細かで切れ目のない支援体制の実現に向けた取組や子育て家庭への経済的支援などに取り組んでいるところだが、子育て支援事業は担当が複数部署にわたっており、情報共有や連携を図りながら対応している現状にあり、今後ますます多種多様化の進む子育て世帯に対する支援体制を構築するためには、組織の抜本的な見直しが必要の課題となっているところであり、そのため、切れ目のない強固な子育て支援を包括的に行う、今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」(仮称)の創設に向け、計画等の審議・検証等のため、設置をしようとするもの。</p> <p>「2. 部会の職務」は、今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」(仮称)の創設計画を策定するため、計画等の審議、進捗状況の検証等を行うこと。</p> <p>「3. 部会委員(案)」については、会議条例により、「会長が指名する委員」または「市長が必要と認める臨時委員」で組織することとなっている。今回設置する部会は、子ども・子育て事業計画に基づいた事業の今治市としてどのように実施していくのか、そのあり方について計画策定に対す</p>


	<p>る議論を深めていく側面が大きく、子育てに関わる幅広い方々から意見を伺える部会にしたいと考えている。そのため資料3-1のとおり、未就学児童世帯に関わりの深い子ども・子育て会議委員の中から4人、まちづくり関係者として、臨時委員2人の計6人の方々にお願いしたい。</p> <p>「4. 今後のスケジュール」について、部会設置の承認後、8月中旬、11月中旬、2月中旬頃に計画素案への意見を伺う予定。(併せて、資料3-2により、計画策定における組織について説明。)</p>
会 長	委員に質問意見等を求める。
会 長	未来子育て部会で、何か計画を立てるなど、具体的に示していくということになるのか。
事 務 局	市の若手職員を中心職員で構成されてるプロジェクトチームが、本市の課題ごとに複数立ち上げられており、この今治版ネウボラ「未来子育て支援機構」(仮称)の創設プロジェクトチームも立ち上げられている。並行してお母さん会議や住民アンケート等から、子育て中の方のニーズを把握しながら、プロジェクトチームで計画素案を作っていく。この計画素案に対して、部会でご意見やご提言をいただき、これを修正し、最後に本会議に諮り、了承を得た上で市長の方に答申をする。そして、その計画に基づき様々な施策が実行されていくというような流れになっている。位置付けとしては、その他部会と一緒にではあるが、特に新しい部会であり、部会を中心に計画策定していきたいと考えている。
会 長	プロジェクトチームのメンバーは、市役所関係の方か。
事 務 局	子育て支援課が事務局になっており、市役所の20代、30代の職員、子育て世代を中心に合計18名で構成。
越 智 委 員	子育て支援に対する国の方針により、今治市でも本会議において、子ども子育て計画が立てられた。量だけではなくて質というものも改善されるという目的もあったが、経済的な問題で想定する予算が入ってこなくなったために、量の面、要するに待機児童等は解消されたが、質の向上のため、例えば、認定こども園等で、職員へのキャリア研修を行うが、予算の関係もあり十分な研修会ができない。認定こども園も免許更新をしないといけない中、文科省の方のデータでは、質が上がってないというデータ

	<p>が上がってきていると聞く。そこで、このネウボラという仕組みだが、子育て世代包括支援センターの保健師の数が少なく、妊婦全員を十分に把握ができてないような状況だと思っている。このネウボラという考え方を基に、センターを強化し、質的なものを上げていく、今治市最後のチャンスかなと思う。市町村合併した時に17万人いた人口が、15万人を切ろうとしている。また、昨年度の日本の出生数が86万人だったのが、今年は70万人まで大幅に減少する見込。このネウボラの構想で質的なものを上げ、子育て世帯に手厚い保障をしっかりとしたらいと思う。日本では、浦安市や三重県亀山市など、かなり力を入れてるところがあるが、それ以上が進んでないところ。やはり、切れ目のない子育てというのがネウボラの目的で、妊娠した瞬間から、高校卒業するまでの間の児童を、しっかりと今治市が守り抜き、人口が増えれば町にも活気が戻るのではないかとと思っている。本会議で泉先生中心に、この計画策定のため、皆さんで頑張っていけたらと思っている。</p>
会 長	<p>子供の最善の利益のため、質の改善と言われていたが、まさにその通りである。部会においても具体的な計画に向けて、議論を進めていきたいと思っている。</p>
事 務 局	<p>貴重なご意見ありがとうございました。そのような視点も含めて質の向上や、子育て世帯に対する経済支援など、どのようなことができるのか、皆様のご意見を伺いながら効果的な子育て支援策ができるよう努めて参りたい。</p>
会 長	<p>未来子育て部会の設置について、承認を求める。</p> <p>(拍手により承認される)</p>
会 長	<p>教育・保育部会の報告を求める。</p>
事 務 局	<p>資料の4に基づき、令和2年度第1回今治市子供子育て会議、教育・保育部会について報告。</p>
会 長	<p>委員に質問意見等を求める。</p>
会 長	<p>その他に進み質問意見等を求める。</p>

事務局	第2回を令和4年2月に行う。また、今年度は委員の任期満了の年のため、関連団体への推薦依頼や一般公募を行う。
大澤委員	幼稚園・保育所から小学校へ、小学校から中学校への児童の引継ぎについて、就学前には各幼稚園等に出向き、児童の様子について連絡会、中学校の方にも引き継ぎを行っている。小学校で、発達に悩みを感じている保護者が多数いる。本市での体制を十分把握していないが、3歳児健診までに、児童の発達上の悩みを把握し、手厚い支援をし、それに対するフォローを継続していく必要がある。なお、東温市では、3歳児、それから5歳児向けの発達支援のサポートブックが、全児童に対し用意されていた。ネウボラの取り組みも、各施策が縦割りにならず連携が取れるような形になることを期待している。
龍田委員	発達支援の関係について、健診には1歳半と3歳児健診があり、その次は就学前の5歳の10月、11月頃にあるが、その時点で発達に疑問が生じても、そこからのフォローでは少し遅い。県内の他の自治体で取り組みがあるが、4歳児健診を本市に導入してはどうか。3歳児では分からないが、4歳になってある程度の知能的なことも分かってくるし、生まれてからずっと18歳までの児童を経路づけて育てていくためには、そういうふうな繋がりも必要だと思う。
中川委員	PTAの活動として、保護者に対してSNSの教育を実施するなどしている。今治市には、数多くの子育て支援事業があると思うが、利用者へ情報を伝わり切っていない部分を感じるところがある。未来子育て部会の委員にも任命していただけるので、現場の保護者の立場としての意見も伝えながら、子育て世帯に情報が伝わる方法を考えていきたい。また、発達の遅れを悩まれる保護者が多いのは、事実肌身で感じている。ただ、発達支援に移るためには、保護者からの申し出がなければ、行政からは動けないようで、今後は、保護者が一歩を踏み出せる仕組み、そのような部分の調整も作ってほしいと思う。
矢野委員	先ほどの大澤委員からのサポートブックについて、発達障害やハンディのある児童の生育歴は、障がい福祉課、発達支援センターなどで作成した「サポートブックばりばり」が10年以上前から作成されており、そのようなものを指しているのか。

大澤委員	生まれた児童全員。定型発達の児童含めてすべて。
会長	保育士不足の課題も、本会議でよく話が出ているが、待遇改善等、今後の見直しなどがあれば聞きたい。
事務局	待機児童が少数でも出るという状況については、保育士不足が根底にあると思う。保育士確保のため、処遇改善も今後継続して取り組みを進めたい。なお、厚生労働省からの情報では、給料面の待遇改善に加え、仕事の忙しさや職場の人間関係の難しさなど、職場の環境改善の必要性も言われており、本市としても単に処遇ということではなく、その辺りも両輪ととらえ改善を進めたいと考えている。
梶原委員	要保護児童対策地域協議会については、児童福祉法の中でも設置が義務化されているが、本市では、義務化以前から、県下でもいち早く取り組んだ町だと思っている。現在、児童相談所への相談件数が、全国で年間約19万件。本市でも随分多くの相談件数があり、毎月欠かさず実務者会議も実施されている。ただ、今年度は児童相談所の出席が少ないのではないかと感じており、ここは一番中核になるところなので、市からも積極的に児童相談所に出席を促して欲しい。次に、児童の学習支援事業について、去年は新型コロナの影響で出席できないところもあったが、今年度、あすなる学園からも3名お願いしており、いわゆる不登校に陥りがちな児童でも、この事業には自発的に出席できているところもあるため、今後も充実した事業対応をお願いしたい。
越智委員	<p>発達障害の児童への支援については、支援が必要と診断されたとしても、質の部分で、その子を育てあげる環境が今治市には不足しているのではと感じる。このネウボラの取り組みというのも、その一つでもあろうと思うので、これから始まる今治市の将来のため、この会議において大いに皆さんと話を進めていければと思う。</p> <p>保護者と子供達が将来夢を持てるまちづくり、子育て支援の場にしていきたいなというふうに思う。</p> <p>当会の閉会</p>

会議の経過を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

会 長 泉 浩徳 

署名委員 砂田 ひとみ 